

ポリシーマネージャ Linux 版の自動バックアップ、及び、復元手順について

ポリシーマネージャ Linux 版での H2DB データベースの自動バックアップ機能と、バックアップデータの復元手順について

「4.3 バックアップを作成する」の項目から抜粋：

バックアップデータは <F-Secure installation folder>\Management Server 5\data\backup フォルダに保存されます。

1. メニューから **ツール > サーバの構成** を選択します。
 2. **[バックアップ]** を選択します。
 3. 自動バックアップのスケジュールを設定するには
 1. **[自動バックアップを有効にする]** を選択します。
 2. **[日単位]** または **[週単位]** のバックアップスケジュールを選択し、自動バックアップを行う曜日と時間を選択します。
 4. 保管するバックアップ数を選択します。
 5. 今すぐにバックアップを行う場合、**[今すぐバックアップ]** をクリックします。
 6. **[OK]** をクリックします。
-

バックアップデータ (yyyy_mm_dd_nn_nn_nn.backup.zip) は、「/var/opt/f-secure/fspms/data/backup」のディレクトリに作成されます。

バックアップデータ (H2DB データベース) を復元したい場合は、下記の手順でバックアップデータ内に含まれている「fspms.h2.db」のファイルを配置する必要があります。

手順：

1. ポリシーマネージャサーバを停止します。

```
# /etc/init.d/fspms stop
```

2. 下記ディレクトリに「fspms.h2.db」ファイルを配置します。

```
/var/opt/f-secure/fspms/data/h2db
```

3. ポリシーマネージャサーバを起動します。

```
# /etc/init.d/fspms start
```

注意:

fspms を停止させても (/etc/init.d/fspms stop が正常終了した場合でも)、fspms ユーザのプロセスがバックグラウンドでまだ実行中の場合があります。これらのプロセスは H2DB データベースをアクセス中の場合もあり、万が一、H2DB 更新中に H2DB データベースファイルが置換えられると、H2DB データベースが破損する原因となる場合があります。

このため、ポリシーマネージャサーバ fspms を停止させた後には、残存プロセスがないことを確認して下さい。

```
# ps -fu fspms
```

bwserver や java プロセスが実行中の場合は、暫くお待ち下さい。

なお、fsavupd が cron で一定時間毎に実行されますが、こちらのプロセスは H2DB にはアクセスしませんので、実行中でも無視して構いません。